

3. 生物調査

3.3 汀線部のチョウセンハマグリ稚貝の生息状況

- 粗粒材投入箇所の試験区L①において、夏季(H26年7月)に、チョウセンハマグリ稚貝の生息を確認した。粗粒材投入後に、砂の堆積が進み、チョウセンハマグリ稚貝の生息環境が形成されたものと考えられる。

粗粒材投入箇所で確認された
チョウセンハマグリ稚貝



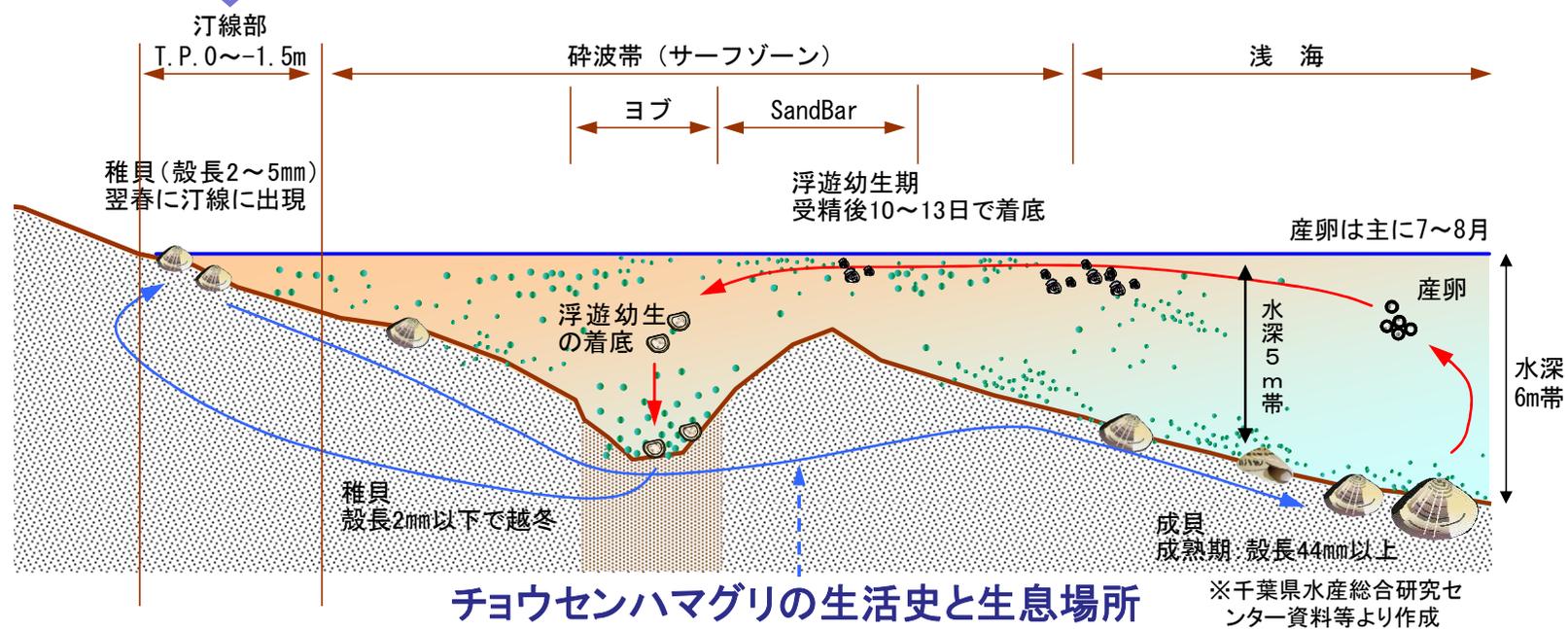
夏季に確認された稚貝(殻長9.8mm)
1才貝と考えられる。



秋季(H25年10月)に確認された殻長20mm前後の幼貝
夏季に現れた稚貝が成長したものと考えられる。



春季の確認個体
汀線部では、殻長30~40mm以上が多く、既往知見から2才貝以上と考えられる。



3. 生物調査

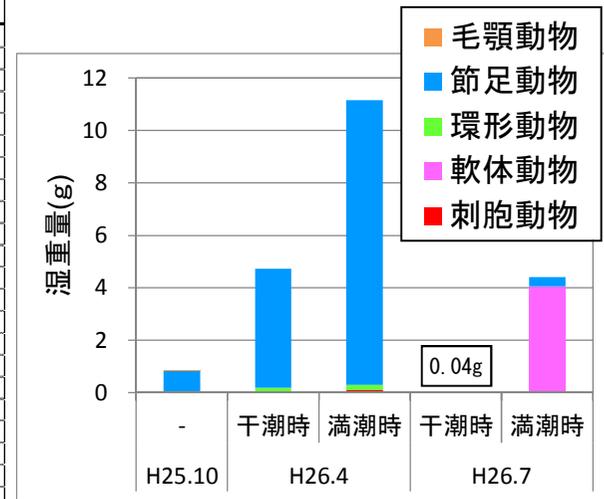
3.4 汀線部のその他の海生生物の変化

砕波帯ネットによる海生生物の確認種

砕波帯ネットを使用した汀線部海生生物調査では、合計で28種の海生生物が確認された。
 秋季(H25年10月)及び春季(H26年4月)は、節足動物門のシキシマフクロアミが最も多く確認された。
 夏季(H26年7月)は軟体動物門のフジノハナガイ科が最も多く確認されている。

汀線部海生生物調査結果

番号	門	綱	目	科	学名	和名	H25年10月	H26年4月		H26年7月		
							-	干潮時	満潮時	干潮時	満潮時	
1	刺胞動物	花虫	イシキンチャク	不明	ACTINIARIA	イシキンチャク目		●				
2	軟体動物	二枚貝	マルスタレガイ	フジノハナガイ	Donacidae	フジノハナガイ科					●	
3					<i>Chion semigranosa</i>	フジノハナガイ					●	
4	環形動物	多毛綱	サンハユカイ	ユカイ	<i>Nereis multigutha</i>	マサゴユカイ			●			
5			フサゴカイ	フサゴカイ	<i>Terebellidae</i>	フサゴカイ科		●				
6	節足動物	海蜘蛛	皆脚	カニテウミグモ	<i>Callipallenidae</i>	カニテウミグモ科	●					
7				ヨロイウミグモ	<i>Pycnogonidae</i>	ヨロイウミグモ科	●					
8				アミ	<i>Archaeomysis vulgaris</i>	シキシマフクロアミ	●	●	●	●	●	
9				軟甲	端脚	カマキヨコエビ	<i>Jassa</i> sp.	カマキヨコエビ属			●	
10						アコナガヨコエビ	<i>Pontogeneia</i> sp.	アコナガヨコエビ属			●	
11						タテソコエビ	<i>Stenothoe</i> sp.	タテソコエビ属			●	
12						メリタヨコエビ	<i>Melita</i> sp.	メリタヨコエビ属			●	
13						モクスヨコエビ	<i>Hyale</i> sp.	モクスヨコエビ属	●		●	
14				ワレカラ	<i>Caprella penantis</i>	マルエワレカラ		●	●			
15					<i>Caprella verrucosa</i>	コワレカラ			●			
16	等脚	ヘラムシ	<i>Synidotea laevidorsalis</i>	ワラシヘラムシ			●					
17		スナホリムシ	<i>Excirelana chiltoni</i>	ヒメスナホリムシ		●	●	●				
18	十脚	カサエビ	ウルマエビ	<i>Trachypenaeus curvirostris</i>	サルエビ		●					
19			サクラエビ	<i>Acetes japonicus</i>	アキアミ	●						
20				<i>Megalopa of BRACHYURA</i>	カニ類の幼ハ 幼生				●			
21			イワガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>	イワガニ				●			
22	毛顎動物	現生矢虫	不明	不明	SAGITTOIDEA	現生矢虫綱	●					
23	脊索動物	硬骨魚	サケ	シラウオ	<i>Salangichthys ishikawae</i>	イシカワシラウオ	●					
24			スズキ	タイ	<i>Sparus sarba</i> (post larvae)	ヘタイ(後期仔魚)		●	●			
25					<i>Acanthopagrus schlegeli</i> (post larvae)	クロタイ(後期仔魚)				●		
26					<i>Mugil cephalus cephalus</i> (juveniles)	ボラ(稚魚)		●				
27					フグ	<i>Takifugu</i> sp.	トラフグ属			●		
28	合計種数						8	7	16	3	4	



汀線部の海生生物の湿重量の経時変化



シキシマフクロアミ



フジノハナガイ科



カニテウミグモ科



砕波帯ネットによる海生生物の採取

予備試験施工モニタリング調査のまとめ

粗粒材養浜予備試験施工に関するモニタリング調査で把握されたこと	
物理環境	<p>1. 粗粒材の水深方向への移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 粗粒材投入箇所<small>の測線</small>で、<u>水深0m及び水深-1.0m</u>において、粗粒材(7号碎石:粒径2.5~5.0mm)を含む礫分が確認された。 ◆ 水深-2.0m以深では、粗粒材投入前後に礫分は出現していない。よって、投入した粗粒材は、水深-2.0m以深には、移動していないものと考えられた。 <p>2. 粗粒材投入後の汀線部の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 投入後2週間で、粗粒材は細砂で覆われみられなくなった。 ◆ 粗粒材を覆った細砂は、2週間後で40cm、4週間後で48cmであった。
生物環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 粗粒材投入後約5週間の春季調査では、チョウセンハマグリは、試験区、対照区の全てで出現した。 ◆ 汀線部のチョウセンハマグリの殻長組成は、春季は、殻長25mm~40mmの個体が多く、既往資料における2歳貝以上に該当すると考えられる。 ◆ 夏季には、粗粒材を投入した試験区L①と対照区L④で、殻長10mm前後のチョウセンハマグリ稚貝の生息を確認した。既往資料における1歳貝に該当すると考えられる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 粗粒材養浜施工箇所では、粗粒材投入後約2週間で、汀線部は砂分に覆われ、投入後約5週間では、チョウセンハマグリを初めとする砂質の海浜に生息する底生動物の生息環境が形成されていた。